

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1～4号機タンク貯蔵量

- ・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5、6号機滞留水貯蔵量

- ・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約2,440m ³	※7
2号機	約8,130m ³	T.P.-105
3号機	約8,730m ³	T.P.-114
4号機	約8,860m ³	T.P.-138
合計	約28,160m ³	

(合計):-630[m³/4週] (合計):-850[m³/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約11,800m ³	T.P.1,715
高温焼却炉建屋	約3,610m ³	T.P.741
合計	約15,410m ³	

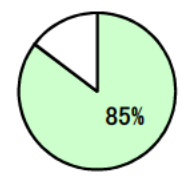
(合計):+6150[m³/4週](合計):+3390[m³/週]

施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	525m ³	1,200m ³
SPT(B)	897m ³	3,100m ³

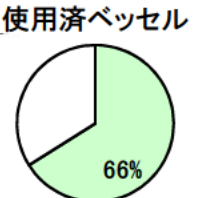
(合計):-1408[m³/4週](合計):-334[m³/週]

④廃棄物発生量

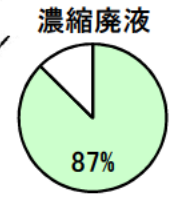
廃スラッジ



保管量:597/700[m³]*3



保管量:4210/6372体 ※1



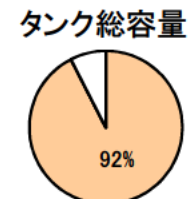
保管量:約9352/10700[m³] ※3
水位計0%以上の保管量:9252[m³]
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m³]

- ②-a RO処理水(淡水)
- ②-b 濃縮塩水(残水)
- ②-c 処理水(多核種除去設備等処理水)
- ②-d Sr処理水等
- タンク解体・建設中エリア
- 水処理二次廃棄物(既設)
- 水処理二次廃棄物(追設予定)
- 循環注水ルート(実線:主に使用するルート)
- ろ過水注水ルート



水量:15043/16300[m³]*2,3
-132[m³/4週]/±0[m³/4週]
-30[m³/週]/±0[m³/週]

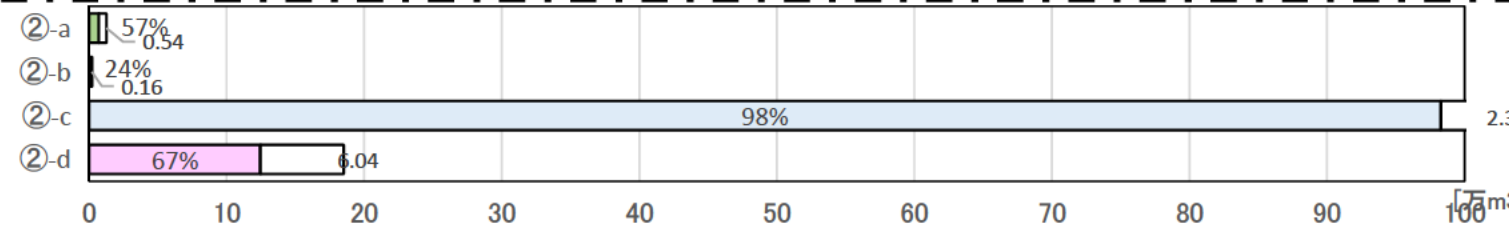
③5、6号機タンク貯蔵量



水量:約1130156/1222200[m³]*2,3
-2886[m³/4週]/+11600[m³/4週]
-1797[m³/週]/+8200[m³/週]

タンク貯蔵量合計(②+③)

- ※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
- ※2 装置稼働中につき水位が安定しないため参考扱い
- ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)
- ※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
- ※5 ウェルポイント・地下水ドレン(約80m³/週)、共用プール建屋から高温焼却炉建屋への移送量(約40m³/週)、サイトバンカ建屋からプロセス主建屋への移送量(約190m³/週)、その他移送量(約70m³/週)の合計約380m³/週を含む(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
- ※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
- ※7 1号機T/B建屋はすでに水抜きが完了しているため、水位を「-」表記する。
- ※8 フランジ型タンクに貯蔵するSr処理水の処理完了(2018/11/17)し、引き続き、残水処理を進める観点から、以後、フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める



水量:約7178/12600[m³]*2,3
水位計0%以上の水量:6278[m³]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約900[m³]

-4002[m³/4週]/±0[m³/4週]
-1736[m³/週]/±0[m³/週]

②-a RO処理水(淡水)

水量:約500/2100[m³]*2,3
水位計0%以上の水量:約400[m³]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m³]

±0[m³/4週]/-3100[m³/4週]
±0[m³/週]/±0[m³/週]

②-b 濃縮塩水(残水)

水量:約982792/1006200[m³]*2,3,4
水位計0%以上の水量:980992[m³]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約1800[m³]

+18636[m³/4週]/+25200[m³/4週]
+4628[m³/週]/+8200[m³/週]

②-c 処理水
(多核種除去設備等処理済水)

水量:約124643/185000[m³]*2,3
水位計0%以上の水量:124043[m³]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約600[m³]

-17388[m³/4週]/-10500[m³/4週]
-4659[m³/週]/±0[m³/週]

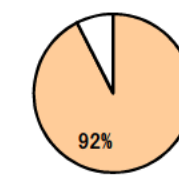
②-d Sr処理水等

水量:約1115113/1205900[m³]*2,3,4
水位計0%以上の水量:1111713[m³]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約3400[m³]

-2754[m³/4週]/+11600[m³/4週]
-1767[m³/週]/+8200[m³/週]

②1～4号機タンク貯蔵量

1～4号機タンク総容量



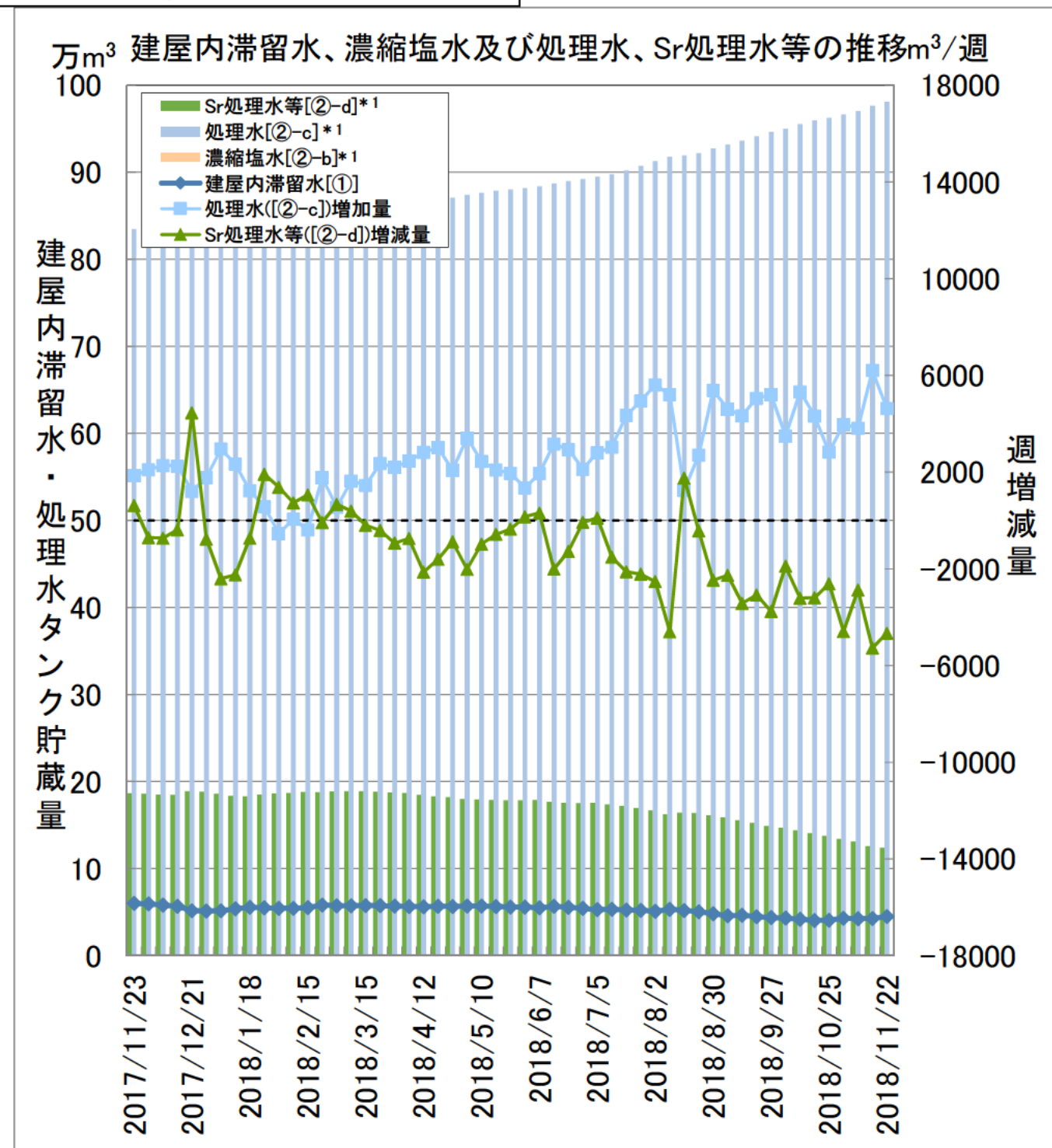
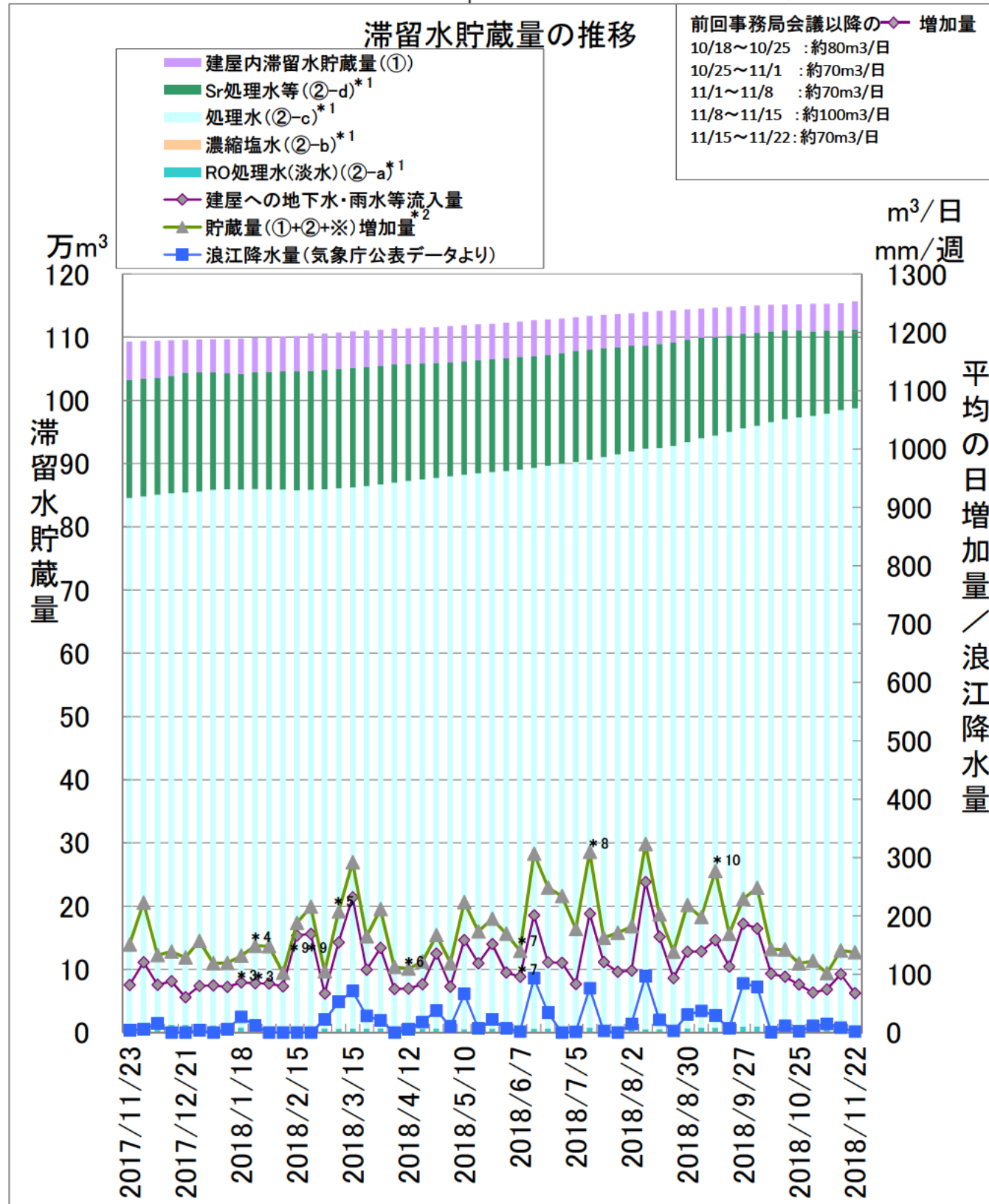
水量:約1160105[m³]

+1358[m³/4週] ※5
+439[m³/週]

建屋内貯蔵量
+
1～4号機タンク貯蔵量
(①+②)

滞留水の貯蔵状況(11月22日時点)
滞留水の貯蔵状況の推移

東京電力ホールディングス株式会社
2018年11月29日



- ①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
②: 1～4号機タンク貯蔵量(②-aRO処理水(淡水))+②-b濃縮塩水+②-c処理水+②-dSr処理水等)
※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量
*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
[(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)]
*3: 残水エリアへ流入した地下水・雨水等流入量を加味して再評価(2018/1/18,1/25)。
*4: SARRY逆洗水を「貯蔵量増加量」に加味していたことから見直し。(2018/1/25)
*5: 右記評価期間は、建屋水位計の校正の影響を含む。(2018/3/1～3/8:3号機タービン建屋)
*6: ALPS薬液注入量の算出方法を以下の通り見直し。(増設ALPS:2018/4/12より見直し実施)
[(出口積算流量)-(入口積算流量)-(炭酸ソーダ注入量)]
*7: 2～4号機タービン建屋海水配管等トレンチの滞留水貯蔵量の計算式見直しを踏まえ、再評価を実施。(再評価期間:2017/12/28～2018/6/7)
*8: 1号機海水配管トレンチからの移送量の管理方法見直しを踏まえ、再評価を実施。(再評価期間:2018/5/31～2018/6/28)
*9: K排水路補修作業の影響で、建屋への流入量が増加。
*10: 工事等に伴う建屋への水移送の影響で貯蔵量増加量が上昇。(移送量の主な内訳は①3uT/B建屋屋上雨水排水:約60m³/日、②淡水化RO雨水濃縮水排水:約10m³/日)

処理水	累積処理水	期間処理水		定格処理量
	[m3]	[m3/週]	[m3/日] ^{注1)}	[m3/日]
既設多核種除去設備 ^{注2)}	397,411	1,454	208	750以上
増設多核種除去設備 ^{注2)}	514,226	3,174	453	750以上
高性能多核種除去設備	102,556	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	1,128	0	0	50
Sr処理水等	期間処理水		定格処理量	
	[m3/週]	[m3/日] ^{注1)}	[m3/日]	
セシウム吸着装置	20	3	600	
第二セシウム吸着装置			1200	

注1) 週間の平均値
注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯蔵